EA21 環境経営レポート

株式会社 環境システム

対象期間:令和4年8月 ～ 令和5年7月

令和5年10月31日 作成

もくじ

1. 組織の概要 ····· 1

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日 ····· 1

3. 環境経営方針 ····· 2

4. 環境経営目標 ····· 3

5. 環境経営計画及び実施した取組内容 ····· 4～5

6. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価 ····· 6～8

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無 ····· 9

8. 代表者による全体の評価と見直し・指示 ····· 10

9. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画 ····· 11

1. 組織の概要

〔１〕事業者名及び代表者

株式会社　環境システム
代表取締役社長　佐藤　崇

〔２〕所在地

・本社(登記上)
〒951-8153　新潟市中央区文京町9番18号　アドラブール文京町
・分室
〒950-1144　新潟市江南区祖父興野263-1

〔３〕環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

・環境管理責任者：代表取締役社長　佐藤　崇
・担当者：事務　岩橋　美穂
・連絡先(分室)TEL：025-250-1668
FAX：025-250-1667
E-mail：k-s.ss@leaf.ocn.ne.jp

〔４〕事業内容

▼土木工事業　▼水道施設工事業　▼管工事業

〔５〕事業規模

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
従業員数(人)	18	18	17
売上高(百万円)	366	315	402
分室床面積(㎡)	302	302	302
倉庫床面積(㎡)	471	471	471
資機材置場面積(㎡)	69	69	69

〔６〕法人設立年月日

昭和49年4月16日

〔７〕資本金

7,000万円

〔８〕決算月日

令和4年8月1日 ～ 令和5年7月31日

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

〔１〕認証・登録の範囲

株式会社 環境システム　全社全活動

〔２〕レポートの対象期間及び発行日

レポート表紙に記載のとおり

3. 環境経営方針

環　境　経　営　方　針

当社は水道工事業を主体に地域の生活環境・衛生環境の維持、向上に努めています。

近年の地球温暖化問題については益々深刻化し、地域社会の一員である当社としましても二酸化炭素排出量の削減を始めとする環境負荷削減への取り組み、及び建設現場における環境対策の取り組みが極めて重要であると考えます。

このため、社員一同が以下の行動指針に基づき環境活動を行い、環境経営の継続的な改善に努め地球温暖化防止と地域の環境保全活動に取り組みます。

環 境 保 全 へ の 行 動 指 針

〔１〕電気や化石燃料の使用量を減らし、二酸化炭素排出量の削減に努めます。

〔２〕建設業として産業廃棄物の再資源化に努めます。

〔３〕一般廃棄物の分別により排出量を削減します。

〔４〕建設現場にて騒音・振動の低減に努めます。

〔５〕上水道の使用を控えて、水資源の保全に努めます。

〔６〕地域貢献活動に協力します。

〔７〕環境関連法規を遵守しコンプライアンスの徹底に努めます。

〔８〕環境経営方針を全社員に周知し、環境保全意識の向上に努めます。

〔９〕環境保全への取り組みを環境経営レポートとして取りまとめ、社内外へ公表します。

制　定　日　平成22年7月27日

改　定　日　令和2年6月30日

株式会社　環境システム

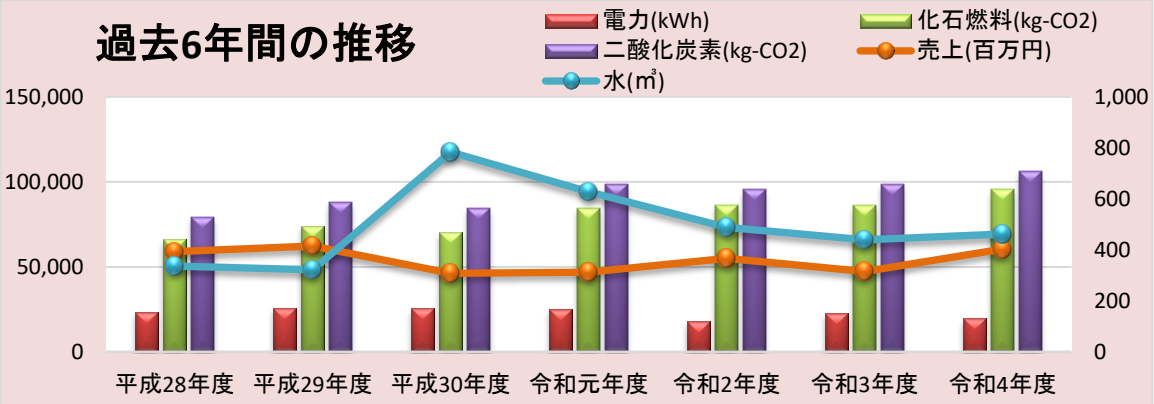
代表取締役社長　　佐藤　　崇

4. 環境経営目標

〔１〕過去の実績

項目		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
売上		百万円	313	366	315	402
総エネルギー投入量	購入電力	kWh	25,408	17,737	22,713	19,801
	化石燃料	kg-CO_2	84,362	85,947	86,102	95,399
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO_2	98,056	95,507	98,549	106,250
水使用量		㎥	627	488	439	462

※電力排出係数は、平成28年度東北電力㈱　調整後排出係数の0.548（以下同じ）
※購入電力及び化石燃料には工事現場使用分を含む。



〔２〕環境経営目標

項目	単位	基準年実績	目標値		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
電力の削減	kWh/売上高(百万円)	72.1 22,713/315.0	71.7 (-0.5%)	71.4 (-1.0%)	71.0 (-1.5%)
化石燃料の削減	kg-CO_2/売上高(百万円)	273.3 86,102/315.0	271.9 (-0.5%)	270.6 (-1.0%)	269.2 (-1.5%)
CO_2排出量	kg-CO_2/売上高(百万円)	312.9 98,549/315.0	311.3 (-0.5%)	309.8 (-1.0%)	308.2 (-1.5%)
水使用量の削減	㎥	439	437 (-0.5%)	435 (-1.0%)	432 (-1.5%)
廃棄物排出量の削減	kg	187.6	187 (-0.5%)	186 (-1.0%)	185 (-1.5%)
再資源化の推進	%	100%	100%を維持		
騒音振動低減	%	低騒音低振動機械の使用100%	100%を維持		
地域貢献活動	%	現場ごと月１回の清掃活動の実施100％	100%を維持		
技術力の向上	研修会の参加回数	2回	２回	２回	２回

注)　1.目標値欄の(　)書き%は、令和3年度実績に対する削減率
2.廃棄物排出量は、事務所における可燃一般廃棄物の排出量
3.再資源化は、業務に伴って排出される産業廃棄物を委託により再資源化する割合。
4.PRTR制度対象物質の使用はないため、化学物質使用量削減の目標設定はしない。
5.年度は、決算期間の8月1日～翌年7月31日

5. 環境経営計画及び実施した取組内容

〔１〕環境経営計画の取組内容

下記のとおり環境経営計画に基づき活動に取り組みました。

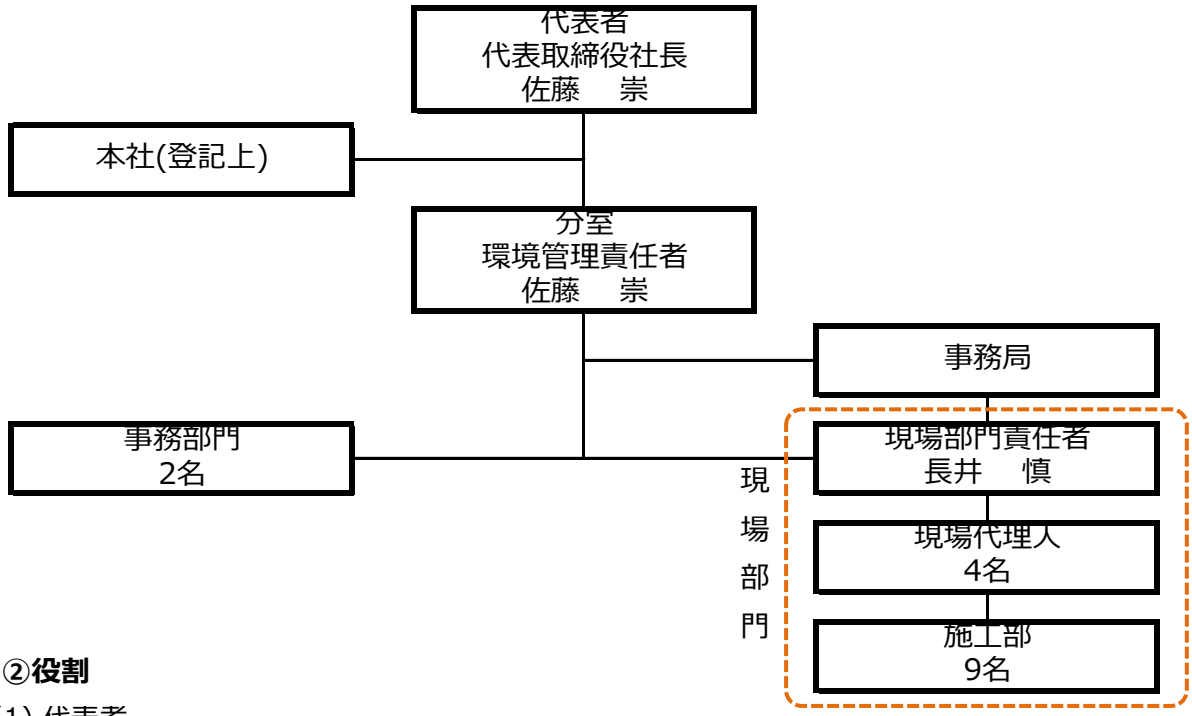
＜環境経営計画の内容＞　　【責任者：佐藤　崇】

目標項目		環境経営計画	スケジュール	担当者	区分	
					分室	現場
電気使用量削減	事務室	昼休み時間の蛍光灯OFF	通　年	塚本	○	○
		換気扇の不在時スイッチOFF	通　年	塚本	○	○
		クールビズ・ウォームビスの実施(冷房28℃、暖房20℃)	7～9月、11～3月	塚本	○	
		エアコンのフィルターの定期的な清掃	７～９月	塚本	○	
		パソコン不要時電源OFF	通　年	塚本	○	○
		冬季の冷蔵庫設定温度上げ	11～3月	塚本	○	
	倉庫	不在時の蛍光灯OFF	通　年	佐藤	○	
化石燃料使用量削減	事務室	暖房(灯油)温度を20℃に抑える	11～3月	塚本	○	
		ガス湯沸し器の使用節約	通　年	塚本	○	
	乗用車	エコドライブ10の実施	通　年	塚本	○	
		月1回の空気圧チェック	通　年	塚本	○	
	トラック	エコドライブ10の実施	通　年	佐藤		○
		月1回の空気圧チェック	通　年	佐藤		○
	重機	重機のアイドリングストップ	通　年	佐藤		○
水使用量削減		水道栓の小まめな開閉(ストッパーノズルの併用)	通　年	塚本	○	
		ガス湯沸し器の節水	通　年	塚本	○	
		トイレ洗浄水の節水	通　年	塚本	○	
		洗濯用水の節水	通　年	塚本	○	
		現場における清掃水の適正使用	通　年	佐藤		○
廃棄物排出量削減	事務室	コピー紙裏面の社内書類コピーに再使用	通　年	塚本	○	
		コピー紙裏面の社内メモ用紙に再使用	通　年	塚本	○	
		シュレッダーの社外秘のみの使用制限	通　年	塚本	○	
		ゴミの分別処理	通　年	塚本	○	
再資源化の向上	現場	梱包材・発生材の分別処理徹底	通　年	佐藤		○
		建設産廃の分別・再資源化の徹底	通　年	佐藤		○
	倉庫	ゴミの分別処理	通　年	佐藤	○	
騒音振動低減	現場	低騒音・低振動機械の使用	通　年	佐藤		○
地域貢献活動	現場	現場ごと月1回の清掃活動の実施	通　年	佐藤		○
技術力の向上		社員の技術向上のため積極的に研修会に参加させる。	通　年	佐藤	○	○

※表の　　で塗りつぶした項目については、該当しないことを示す。

〔２〕実施体制

①会社組織図(EA21実施体系図)



②役割

(1) 代表者

① 環境管理責任者を始め、必要な責任者を任命する。
　当該責任者には、現在の職務に係りなく責任と権限を明示する。
② 経営における課題とチャンスを明確にする。
③ 効率的で必要十分な実施体制を構築し、各自の役割・責任・権限を全従業員に周知する。
④ 環境経営システムの運用・維持に必要な経営資源（人・もの・資金・情報）を用意する。
⑤ 環境経営方針を制定し、従業員に周知する。
⑥ 環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、環境経営方針、環境経営目標をはじめ、システム全体の見直しを行い、必要であれば改訂を指示する。
⑦ 環境経営レポートの承認。

(2) 環境管理責任者

① 環境関連業務を推進し、代表者に代わって管理運営する。
② 環境経営システムの構築・運用を円滑に行い、代表者の見直しのための情報として、その構築・運用に関する情報を代表者に提供する。
③ 環境経営目標の達成状況、環境経営計画の取組状況を3ヵ月に1回確認・評価する。
　半期・年度末の目標未達成時は、是正予防処置を講じる。
④ 外部及び内部コミュニケーション担当者。
⑤ 環境経営レポートの確認。

(3) 事務局

① 環境管理事務局でデータ記入・文書作成などの事務一般を取り扱う。
② 文書類改定の際は旧文書類を回収、廃棄し、新文書類の発行を行う。
③ 環境経営システムに関する教育訓練の計画を作成する。
④ 5年経過した記録等の廃棄を行う。
⑤ 環境経営レポートの作成

(4) 現場部門責任者（エコアクション21担当者）

①各工事現場において、全員参画による環境経営計画の取組の指示及び実施。

(5) 現場代理人、施工部（全社員）

① 環境経営計画及び決められた事項を守り自主的かつ積極的に活動に取組む。

6．環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価

〔１〕環境経営目標の実績・取組結果とその評価

令和4年度(令和4年8月～令和5年7月)の環境経営目標の達成状況は以下のとおりである。

項　　目	単　位	基準年実績 令和3年度	目標値 令和4年度	実績値 令和4年度	達成状況 (○:達成、×:未達成)
電力の削減	kWh/ 売上高(百万円)	72.1 22,713/315.0	71.7 (-0.5%)	49.2 19,801/402.4 (-31.4%)	○
化石燃料の削減	kg-CO_2/ 売上高(百万円)	273.3 86,102/315.0	271.9 (-0.5%)	237.1 95,399/402.4 (-12.8%)	○
CO_2 排出量	kg-CO_2/ 売上高(百万円)	312.9 98,549/315.0	311.3 (-0.5%)	264.0 106,250/402.4 (-15.2%)	○
水使用量の削減	㎥	439	437 (-0.5%)	462 (5.7%)	×
廃棄物排出量の削減	kg	187.6	187.0 (-0.5%)	200.0 (7.0%)	×
再資源化の推進	%	100%	100%	100% 1244.9t/1244.9t	○
騒音振動低減	%	低騒音低振動機械の使用 100%	100%	100%	○
地域貢献活動	%	現場ごと月１回の清掃活動の実施 100 %	100%	100%	○
技術力の向上	研修会の 参加回数	２回	２回	３回	○

※1.目標値欄の(　)書き%は、基準値に対する削減率
※2.実績値欄の(　)書き%は、目標値に対する削減率

①電力の削減

目標値に対して31.4%削減し、目標を達成できた。
原単位である売上高は基準年比で27.7%増加、使用量は12.8%削減された。今年度は、一時期工事の間隔があいたこともあり、現場事務所使用量が28.8%減少した。本社事務所は照明をLED電球にし電力使用量は削減された。今後も省エネに対する取組を徹底し、引き続き節電に努める。

②化石燃料の削減

目標値に対して12.8%削減し、目標を達成できた。
工事量の増加により、軽油使用量は11.4%の増加となった。重機の作業が少ない工事の請負もあり、化石燃料の使用の割に売上高は増加した。
また、寒波の影響で、灯油、LPｶﾞｽの使用量は増加した。その中でも、節約に努めた結果、原単位の売上高当りでは、目標を達成することができた。
次年度においても、化石燃料削減に対する啓発活動を継続し重機のエコドライブを徹底する。

③CO_2排出量の削減

化石燃料が１割の増加となったが、CO_2排出量の目標は15.2%削減し、目標を達成することができた。引き続き啓発活動を継続し削減を徹底する。

④水使用量の削減

目標値に対して5.7%の超過となり、目標を達成できなかった。
水の使用状況については、工事現場清掃のため散水車を使用している。そのため、近年使用量が増加していた。工事量が増加したことで、水使用量も増加となった。
今後も工事現場において散水量を調整し、節水に努めていく。

⑤廃棄物排出量の削減

目標値に対して7.0%超過し、目標を達成できなかった。
現場事務所からの可燃ごみや、業務増加により部品梱包ごみ、書類ごみが増加した。
可燃ごみは分別を徹底し、引き続き廃棄物の削減に努める。

⑥産業廃棄物の再資源化の推進

工事で排出される産廃の分別の徹底により、１００%の再資源化を行い目標達成した。

⑦騒音振動低減

現場使用する建設機械については全て低騒音、低振動型の機械を使用し目標を達成した。

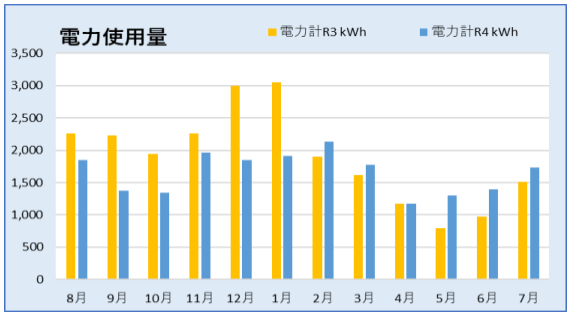
⑧地域貢献活動

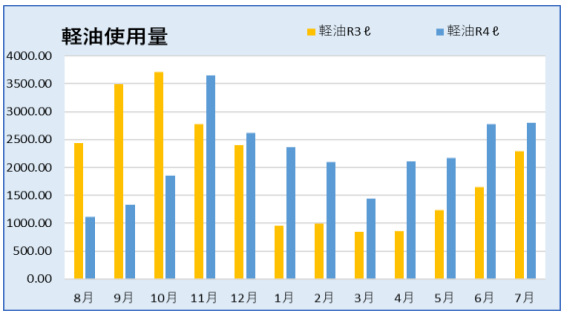
現場ごとに月１回の清掃活動を実施し目標を達成した。

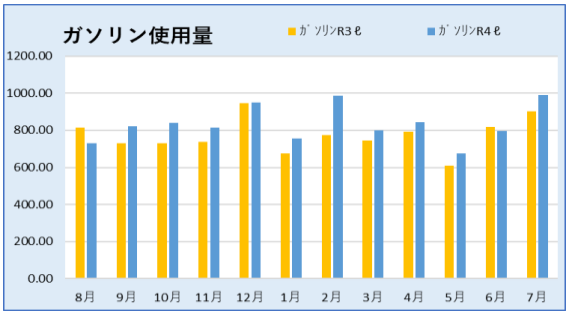
⑨技術力の向上

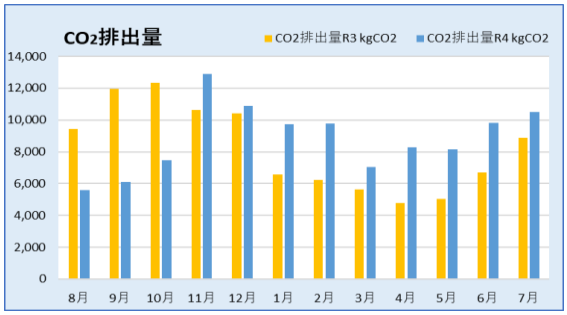
技術力の向上の目標には、研修会の参加２回を目標とし取り組んだ。今年度の研修会は、３回参加と目標を達成した。今後も、積極的に技術力の向上をバックアップしていきたい。

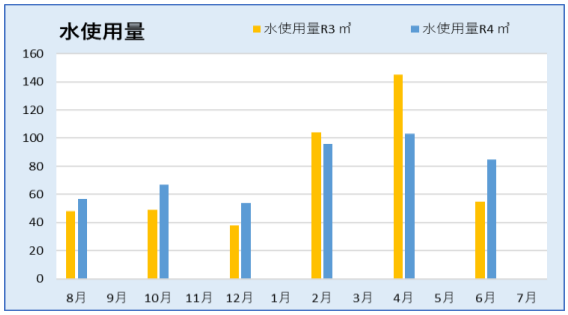
◇　基準年（R3）、取組年（R4）の主な月別実績の比較

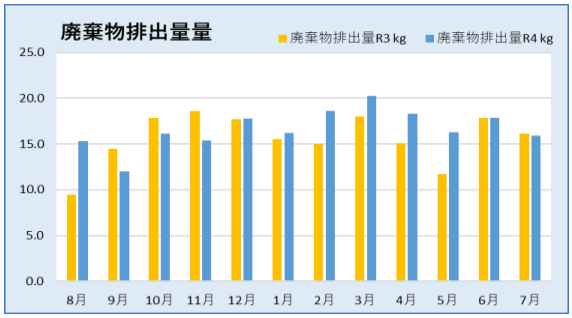




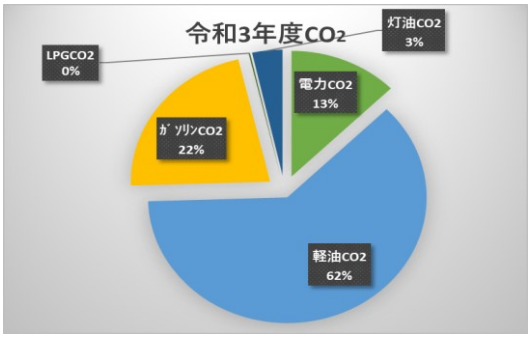


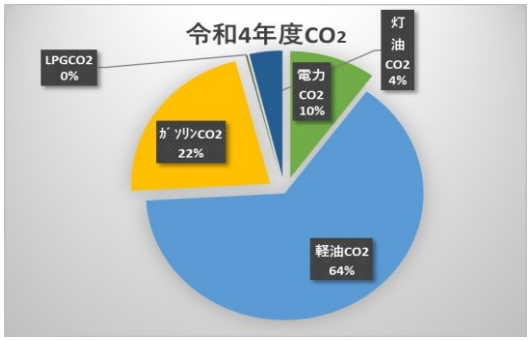






◇　基準年（R3）と取組年（R4）のCO_2の内訳





〔２〕環境経営計画の取組結果とその評価、及び次年度の環境経営計画

環境経営計画の内容と併せて、四半期ごとの実施状況を点検した評価結果を良い方から5→1の5段階評価した取組み期間の平均値で示した。

取組結果は下記のとおりである。概ね順調に活動しているが、さらに評価点の向上に努める。

＜環境経営計画の内容＞

目標項目		環境経営計画	担当者	評価点		次年度取組	
				分室	現場	分室	現場
電気使用量削減	事務室	昼休み時間の蛍光灯OFF	塚本	5.0	5.0	継続	継続
		換気扇の不在時スイッチOFF	塚本	4.5	4.5	継続	継続
		クールビズ・ウォームビスの実施(冷房28℃、暖房20℃)	塚本	4.5		継続	
		エアコンのフィルターの定期的な清掃	塚本	5.0		継続	
		パソコン不要時電源OFF	塚本	5.0	5.0	継続	継続
		冬季の冷蔵庫設定温度上げ	塚本	5.0		継続	
	倉庫	不在時の蛍光灯OFF	佐藤	4.5		継続	
化石燃料使用量削減	事務室	暖房(灯油)温度を20℃に抑える	塚本	4.0		継続	
		ガス湯沸し器の使用節約	塚本	5.0		継続	
	乗用車	エコドライブ10の実施	佐藤	5.0		継続	
		月1回の空気圧チェック	佐藤	4.5		継続	
	トラック	エコドライブ10の実施	佐藤		5.0		継続
		月1回の空気圧チェック	佐藤		4.5		継続
	重機	重機のアイドリングストップ	佐藤		5.0		継続
水使用量削減		水道栓の小まめな開閉(ストッパーノズルの併用)	塚本	5.0		継続	
		ガス湯沸し器の節水	塚本	5.0		継続	
		トイレ洗浄水の節水	塚本	5.0		継続	
		洗濯用水の節水	塚本	5.0		継続	
		現場における清掃水の適正使用	佐藤		5.0		継続
廃棄物排出量削減	事務室	コピー紙裏面の社内書類コピーに再使用	塚本	5.0		継続	
		コピー紙裏面の社内メモ用紙に再使用	塚本	5.0		継続	
		シュレッダーの社外秘のみの使用制限	塚本	5.0		継続	
		ゴミの分別処理	塚本	5.0		継続	
再資源化の向上	現場	梱包材・発生材の分別処理徹底	佐藤		5.0		継続
		建設産廃の分別・再資源化の徹底	佐藤		5.0		継続
	倉庫	ゴミの分別処理	佐藤	5.0		継続	
騒音振動低減	現場	低騒音・低振動機械の使用	佐藤		5.0		継続
地域貢献活動	現場	現場ごと月1回の清掃活動の実施	佐藤		5.0		継続
技術力の向上		社員の技術向上のため積極的に研修会に参加させる。	佐藤	5.0	5.0	継続	継続

【評価点】5:優れている（模範となる）　4：やや優れている（評価できる）　3：良い　2：やや良い　1：普通

※表の　　で塗りつぶした項目については、該当しないことを示す。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

当事業所に適用される環境関連法規について遵守状況を自ら点検した結果、下表のとおり違反なく全ての関係法規を遵守していることを確認した。また、関係行政当局より違反等の指摘、並びに住民等からの当社への苦情は過去3年間なく、訴訟についても皆無である。

環境関連法規	要求事項	点検結果
家電リサイクル法	・家電廃棄物を適切に業者に渡し料金を支払う等	遵守
自動車リサイクル法	・使用自動車の長期間使用、リサイクル費用の負担等	遵守
建設リサイクル法	・建設廃棄物の排出抑制に努める。 ・再資源化建設資材の使用に努める。 ・特定建設資材を含む一定規模以上の工事での分別解体の義務	遵守
廃棄物処理法	・産業廃棄物収集運搬業の許可、収集、運搬の基準の厳守、委託基準の厳守、マニフェスト管理、記帳の厳守、監督官庁への年1回の報告等 ・多量排出事業者の計画・実施状況の報告等	遵守
浄化槽法	・保守点検・清掃の義務 ・水質検査の実施	遵守
新潟市産業廃棄物の適正な処理の促進に関する条例	・処分委託予定者の稼動状況等の確認、記録等	遵守
騒音規制法	・指定地域内において実施する、特定建設作業の届出	遵守
振動規制法	・指定地域内において実施する、特定建設作業の届出	遵守
新潟市生活環境等の保全に関する条例	・指定地域内において実施する、指定建設作業の届出	遵守
フロン排出抑制法	・第一種特定製品の簡易点検の実施 ・廃棄時の第一種フロン類充填回収業者への引き渡し ・第一種特定製品廃棄等実施者による書面の交付、引き渡し時は引取証明書の写しを交付	遵守
オフロード法	・特定特殊自動車の基準適合の表示又は少数特例表示	遵守
石綿障害予防規則（労働安全衛生法）	・石綿等の使用の有無を資格を有する者による事前調査、分析の実施、記録の作成 ・石綿作業主任者の専任と職務の実施	遵守

8. 代表者による全体の評価と見直し・指示

実施・承認日：令和5年9月30日

	点検項目	環境管理責任者による評価
取組の評価結果	環境経営目標の達成状況	電力の削減、化石燃料使用量削減、二酸化炭素排出量の削減、再資源化の推進、騒音振動の低減、地域貢献活動、技術力の向上項目については、目標を達成した。 水使用量の削減については、工事現場清掃のため上水を使用し、散水車で行っていることから使用量が増加、目標未達成となった。また、廃棄物排出量削減については、業務増加により書類ごみが増加し、目標未達成となった。
	環境経営計画の実施及び運用結果	環境経営計画点検表のとおり概ね実施されている。
	環境関連法規などの遵守状況	環境関連法規等のチェックの結果、全て遵守していることを確認した。
	外部からの環境に関する苦情要望など	環境に関する苦情等はなかった。

	項目	代表者による評価内容
全体評価	環境への取組は適切に実施されているか	事務所、工事現場共に適切に取組が行われていた。
	環境経営システムが有効に機能しているか	システムに問題は無く、有効に機能していた。

	点検項目	変更の必要性				指示の内容
見直しに関わる指示事項	環境経営方針	☑	変更する	☐	変更する必要はな	工事現場に関する項目を取り入れ変更する
	環境経営目標	☑	変更する	☐	変更する必要はない	方針変更に伴い、目標を変更する。 廃棄物排出量、水使用量は売上高当りの原単位に変更する。
	環境経営計画	☑	変更する	☐	変更する必要はな	目標項目に対応した取り組みに変更する。
	実施体制	☐	変更する	☑	変更する必要はな	特に問題はなく、変更はしない。
	その他	☐	変更する	☑	変更する必要はな	特に変更の必要はない。

代表者のコメント	環境活動は、全社員に周知されており、良く実行されていた。 今年度は業務多忙な中、また、続くコロナ禍の中ではあったが、工事の施工は順調に進み、二酸化炭素排出量の原単位削減目標を達成することができ、評価できる結果であった。工事現場では工事量の増加に伴い、軽油使用量は増加したが、効率的に作業を進めることができた。 公共工事の受注に対応すべく、工事現場においては環境に十分配慮し、安全・安心な工事を行う。それに伴う社員の技術の向上、地域貢献活動の継続を今後も行っていく。また、工事内容によりエネルギー使用量は変動するが、原単位当たりの目標達成に向け、使用量の削減につなげるよう活動を継続する。

9. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

代表者による見直し・指示結果を受けて、下表のとおりとした。

〔１〕環境経営目標

次年度の環境経営目標は下表のとおり

項　　目	単　位	基準年実績	目　　標　　値		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
電力の削減	kWh/売上高(百万円)	72.1 22,713/315.0	71.7 (-0.5%)	71.4 (-1.0%)	71.0 (-1.5%)
化石燃料の削減	kg-CO_2/売上高(百万円)	273.3 86,102/315.0	271.9 (-0.5%)	270.6 (-1.0%)	269.2 (-1.5%)
CO_2 排出量	kg-CO_2/売上高(百万円)	312.9 98,549/315.0	311.3 (-0.5%)	309.8 (-1.0%)	308.2 (-1.5%)
水使用量の削減	㎥	1.394 439/315.0	―	1.380 (-1.0%)	1.373 (-1.5%)
廃棄物排出量の削減	kg	0.596 187.6/315.0	―	0.590 (-1.0%)	0.587 (-1.5%)
再資源化の推進	%	100%	100%を維持		
環境苦情ゼロ	件数	0件	0件を維持		

注)　1.目標値欄の(　)書き%は、令和3年度実績に対する削減率

2.廃棄物排出量は、事務所における可燃一般廃棄物の排出量

3.再資源化は、業務に伴って排出される産業廃棄物を委託により再資源化する割合。

4.PRTR制度対象物質の使用はないため、化学物質使用量削減の目標設定はしない。

5.年度は、決算期間の8月1日～翌年7月31日

※電力排出係数は、平成28年度東北電力㈱　調整後排出係数の0.548

〔２〕次年度の環境経営計画

次年度の環境経営計画はP8に記載のとおりとし、目標項目追加「環境苦情ゼロ」については、下記のとおりとする。目標の削除に伴う環境経営計画は削除する。

目標項目		環境経営計画	スケジュール	担当者	区分	
					分室	現場
環境苦情ゼロ	現場	施工計画に沿った工事の確実な実施	通　年	佐藤		○
		顧客の要望事項の遵守	通　年	佐藤		○
		創意工夫による環境に配慮した工事の提案	通　年	佐藤		○
		低騒音機器の使用による工事	通　年	佐藤		○
		技術力の向上（研修会等の参加）	通　年	佐藤		○
		工事現場清掃など地域貢献活動の実施	通　年	佐藤		○
		地域住民への丁寧な対応	通　年	佐藤		○

※表の▨で塗りつぶした項目については、該当しないことを示す。